

「ああほうか ほうじゃったんか」

村むらの人々ひとびとは、たいそう喜よろこんで、ヘクソカヅラの  
言いったとおり その日ひに切きった木こっ端はを、全部ぜんぶ焼やいて  
しもうたんじゃ……。。

それから、切きり口くが元もとにはもどらんかったそうなの。





バリ  
バリ  
ド——ン  
バリ  
バリ

何日<sup>なんにち</sup> かつたんじやろうか？

とうとう この大杉<sup>おおすぎ</sup>は、

大きな地響<sup>じび</sup>きをたてて倒<sup>たお</sup>れてしもうた。



聞こえたそう<sup>き</sup>な。

その時の音<sup>ね</sup>は、  
遠く四国<sup>しこく</sup>や九州<sup>きゅうしゅう</sup>の方<sup>ほう</sup>まで







ちようど 大杉を切ったところに、  
行基と、言われる徳の高い 偉い  
お坊様が、通りかかられました。

行基様は、村人達から この大杉が光明を  
はなっていたという話を聞かれて、

「この木は、仏様をこしらえる木です。  
私が彫ってあげましょう。」  
と、言われました。